

公表

放課後等デイサービス 事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドハート門真駅前学館		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 1日 ~ 令和7年 12月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 1日 ~ 令和7年 12月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小学生から高校生まで幅広い年齢層の児童が通っている為、児童同士で成長できる環境がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・年上児童中心に活動の司会役を任せたり、様々な役割を任せることで見本的な役割が出来るようにしている。 ・年下児童が年上児童と沢山関わる機会を提供している。 ・年上児童は見本や見守りのスタンスでいてもらい、年下児童は“自分の事は自分でできる”という力を伸ばしていくように支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年上児童に対して将来の自立を促す活動を提供していく。その姿を年下児童が見る事で、年上児童を目標として成長していくよう促していく。
2	様々な種類の運動活動やイベントを行っている。 また、児童がやりたいこと（活動やイベント）をスタッフに伝え、実現に向けてスタッフと共に行動していく環境を作っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・バランス感覚や体幹等を身につける活動、体力をつける活動、ルールある遊びを行う事で社会性を身に付ける活動、記憶力・判断力を伸ばせるような活動など、運動能力はもちろんのこと、それ以外の能力も伸ばせるような活動を行っている。 ・毎月様々なイベントを行う事で、様々な経験を積んでもらっている。 ・子ども達にやりたい事を聞いて、イベントの企画やしおり作りなどに取り組んでもらい、子ども達の自主性の成長を促している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動が同じ物ばかりにならないよう、バランスよく活動を提供していく。新たな活動も模索し、良い活動は積極的に取り入れていく。 ・来所する児童の課題を分析し、それぞれの課題にあった活動を提供していく。
3	児童同士で多様性を受け入れる空気感がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の活動を通して人には得意不得意がある事を伝え、様々な人がいる事を受け入れられるよう支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動を提供し、多様な経験を積んでもらう中で、児童の心身の成長を促していく。 ・種目別リレーなどを取り入れる事で、子ども達それぞれが得意な事、苦手な事を認め、苦手を補いあえる関係を作っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設内が狭い。		<ul style="list-style-type: none"> ・公園などの外遊びや外出イベントを積極的に取り入れる。 ・縦長の室内を活かした運動活動を行う事で、狭さを感じさせない工夫を行っていく。
2	子ども達の自己決定力が低く感じる。（どっちでも、なんでもいい、と言う児童が多い。）	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗や否定される事を考えて、自己主張が出来ない児童がある可能性がある。 ・スタッフの声掛けや支援が多くなっており、物事を自分なりに考える力が低くなってしまっている可能性がある。 ・考える時間をしっかりとれていない可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗に対して前向きになれるような言葉かけ、環境作りを行っていく。 ・自分で考える力を伸ばせるよう、場面によって見守りや手助けを適切に使い分けるようにする。 ・子ども達同士で話し合う機会や時間をしっかりとていく。
3	集団療育が基本となっているため、子ども一人一人の課題に焦点をあてた、個別・小集団での支援がまだまだ少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・集団での運動療育を基本としており、その良さも大切にしたいため、なかなか個別や小集団での支援が難しくなっている。 ・集団活動の時間（スケジュール）が詰まっているため、個別・小集団の活動時間の配分が難しくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在も専門的支援として少しずつ進めているため、試行錯誤しながらより良い形が定着するように工夫していく。 ・児童一人一人に合わせた支援が必要となるため、今まで以上にスタッフ一人一人が子どもを見る力、支援の能力を向上させていく。

公表

放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果

事業所名		チャイルドハート門真駅前学館					公表日	令和8年 2月 15日
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点		課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		1	5	物品の配置を工夫したり、限りある療育スペースの中でより広く活動スペースが取れるように工夫しています。それ以外にも活動内容を工夫したり、外出（公園）活動を取り入れる事で、子ども達がしっかり体を動かせるようにしています。		
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		3	3	シフトを調整しながら職員の人数が適切なものになるように配慮しています。		1人1人の指導員の質の向上を行う事で、配置数以上の手厚い療育を目指していきます。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		3	3	入口、トイレに段差があります。現在、配慮が必要な場面があれば、指導員がサポートを行っている状況です。子ども達がスムーズに行動できるよう、スケジュールなど可視化しています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。		4	2	室内が狭いため、鬼ごっこなど広く範囲を使う活動はやりにくくなってしまう。人数をわけながら怪我がないように工夫している。		
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		2	4	クールダウンが必要な児童への対応スペースがない為、現在は学習ルーム（他児童がいない場合）か、事務所で対応をしています。子どもからの要望があった際には個別で話を行う対応も行っている。		必要に応じて仕切りなどを利用する事で、個別で過ごせる場所の確保を行っていきます。ただし、音などの刺激が遮断されにくい点に関しては、耳栓などを用意する事で対応しています。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		5	1			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		6	0			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		6	0	月に一度スタッフミーティングを行い、職員の意見を聞き、話し合う機会を作っています。その中で出た意見や課題点など、改善に向けて検討を行っています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4	2			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		6	0	本部が行っている研修に参加し、職員のスキルアップを目指しています。		本部研修以外にも施設内で研修を行う事で、職員の資質の向上を目指していきたいと思います。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		6	0	支援プログラムを作成し、ホームページに掲載し、施設の入り口付近にも掲示しています。		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		6	0	日々子ども達と関わる中で見つけた課題を職員間で共有し、アセスメントを行なながら個別支援計画書の作成を行っています。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		6	0	個別支援計画書を作成後、職員間でカンファレンスを行っています。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		6	0			
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		6	0			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		6	0			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		5	1	日々指導員全員で話し合い、子どもに適したプログラムを立案しています。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		6	0	日々様々な活動を行い、多様なイベントを企画するようにしています。		活動のマンネリ化を防ぐ為にも、常に新たな活動やイベントを模索していきます。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。		6	0			

	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	毎日朝にミーティングを行い、そこで当日の活動内容や、指導員の役割分担について話し合っています。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	毎日支援終了後に指導員で一日の振り返りを行っています。その際に子ども達の様子で伝えるべき事や保護者からの引継ぎ事項の確認を行っています。	引継ぎ、申し送り漏れがないように、指導員一同で気を引き締めてミーティングを行っていきます。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0		
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	定期的にモニタリングを行っており、個別支援計画も見直しを行っています。	モニタリングを行う際に指導員と共に対象児童の成長や課題を話し合っていきます。
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	6	0		
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0		
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	サービス担当者会議が開催される際は基本的に児発管が参加しています。相談支援事業所へのモニタリングの連絡等も児発管が行っています。	
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0		
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0		
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	3		
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	3	対象となる児童がいない為現在は行えていませんが、必要があれば行うことは可能です。	
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	0		
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	5	児童クラブや児童館との交流は方法を模索中です。	地域との関わりとしては公園へ出かけた際に地域の児童と遊ぶこともあります。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2		
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	連絡帳や送迎時、電話連絡等で保護者へと引継ぎを行っています。	
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレン特レーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	5		
保護者への説明等	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	利用契約時に児発管より行っています。	
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0		
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0		
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	保護者より相談があった際、すぐに返答出来る内容であればその場で返答を行っています。難しい場合は指導員全体で話し合い、適切な対応について考え、支援に反映するようにしています。	管理者、指導員のスキルアップを行う事で、適切な助言や支援を今まで以上に行えるようにしていきます。
	40 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	5	今まで保護者からの要望が少なかった為開催出来ていません。要望が増えれば開催を検討していきます。	
	41 こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	苦情相談窓口の存在を利用契約時に伝えています。苦情があった際には管理者より保護者へ連絡を行い対応を行っています。	
	42 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	チャイルド通信の発行やブログの更新で活動の様子や行事予定を発信しています。	

	43 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0		
	44 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0		
	45 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	5		
非常時等の対応	46 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0		各種マニュアルを策定し、施設で保管していますが、保護者の方々への周知が不足してしまっています。ご希望があればマニュアルをご確認していただいたうえ、ご説明させていただきます。
	47 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	年に2回、避難訓練の実施を行っています。昨年は地震を想定して行いました。来年度も引き続き行う予定です。	
	48 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6	0		
	49 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	3	食物アレルギーがあると聞いている児童がごく少数であり、基本的におやつのみの提供の為、現在は行っていません。	
	50 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0		
	51 子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0		
	52 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	ヒヤリハットのファイルを作成しています。	今まで以上にヒヤリハットが起きた際には記録に残し、指導員全体で周知し、同様の事が起きないよう対策を話し合ったうえで療育していきたいと思います。
	53 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	虐待防止委員会を設置し、年に数回虐待防止についての研修も行っています。	
	54 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0		